

東大阪市教育委員会令和6年8月臨時会

1 日時 令和6年8月26日(月)

開会 午後2時00分

閉会 午後4時25分

2 場所 市庁舎18階 会議室1及び会議室2

3 出席者 (委員)

教育長	古川 聖登
教育長職務代理人	秦 卓宏
委員	堤 晶子
委員	山中 雅仁
委員	田中 宏一

(出席説明員)

教育次長	森田 好一
教育次長	永吉 勝則
学校教育部長	太田 恭子
教育政策室長	西田 幸史
学校教育推進室長	中渕 一博
学校教育推進室参事	吉本 博明
学校教育推進室主幹	山口 敬之

4 議事

【古川教育長】

ただ今から、東大阪市教育局令和6年8月臨時会を開会いたします。本日の会議録署名委員は、秦教育長職務代理者をお願いいたします。本日の会議でございますが、日程第1「議案第27号 令和7年度使用東大阪市立中学校（義務教育学校の後期課程を含む）教科用図書採択の件」を議題といたします。議案の説明を求める前に、私から一言御礼申し上げます。

全ての教科用図書を拝見いたしました。どれも新時代の学校教育に相応しく、内容の工夫があり、心のこもったものでした。まず、各教科発行者に心から御礼申し上げます。さらに、これらの教科書を検定していただいた文部科学省の担当官、そして今回の東大阪市の採択にあたり、お忙しい中調査資料を作成いただいた大阪府と東大阪市の委員の皆様、感想や御意見をいただいた市民の皆様、関心をもって注視いただいている全ての皆様に、心から御礼申し上げます。本当にありがとうございます。次世代の教育は、行政や学校のみならず、市民一人ひとりとともに、社会全体で進めてまいりましょう。なお、本日は拡声器を使用いたしませんので、発言の際は、大きめの声で発言いただきますようお願いいたします。それでは、議案の説明をお願いします。

【永吉教育次長】

それでは、議案の説明をさせていただきます。

日程第1「議案第27号 令和7年度使用東大阪市立中学校（義務教育学校の後期課程を含む）教科用図書採択の件」につきましては、東大阪市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会より答申を受け、令和7年度に使用する東大阪市立中学校（義務教育学校の後期課程を含む。）の教科用図書について、採択を行うものがございます。以上でございます。

【古川教育長】

次に、森田教育次長より、教科用図書選定委員会における答申に至るまでの経過について、説明をお願いします。

【森田教育次長】

それでは、説明をさせていただきます。

まず、令和6年5月13日に全選定委員12名による第1回の選定委員会を開催いたしました。その中で、本市立中学校において令和7年度から4年間使用する教科用図書及び当選定委員会が諮問を受けた内容を確認するとともに、選定委員会内に種目ごとに部会を設け、そこに学校現場の3名の教職員からなる調査員を置き、専門的な調査研究を行い、報告書を作成するように指示いたしました。これを受け、各部会において、教育専門職としての経験を十分に活かした調査研究が進められ、同年5月17日の第1回調査員全体会及び同年6月19日の第2回調査員全体会を経て、調査員報告書が作成され、当選定委員会へと提出されました。そして、当選定委員会は、その提出された調査員報告書を基に他の資料も参考にして、同年7月18日の第2回選定委員会及び同年7月25日の第3回選定委員会を経て、教育委員会への答申を作成いたしました。教育委員会への答申及びその内容は議案書に添付しているとおりでございます。以上でございます。

【古川教育長】

ただいまご説明いただきました教科用図書選定委員会の経過について、御質問はございますか。

【各委員】

(特になし)

【古川教育長】

それではこれより各種目の採択を行ってまいります。各委員から東大阪市で使用する教科書としてふさわしい教科書についてご意見をいただき、そのうえで議論を行い、採択する教科書を決定してまいりたいと思います。

まず、森田教育次長より、選定委員会全体を通して議論の中心になったことについて、説明をお願いします。

【森田教育次長】

すべての種目で今回話題にあがったのは、大きく分けて『探究する学び』・『学び方を学ぶ』の2点です。

1つ目の『探究する学び』については、子どもたちが主体的に学び、知的好奇心やワクワク感を持ち続けるために、どのような工夫がなされているのかという点です。具体的には、「前年度や他教科との学習のつながり」・「実際の社会問題や課題」・「学習全体の見通し」に注目して議論が行われました。

2つ目の『学び方を学ぶ』ことについては、子どもたちが生涯にわたって、学ぶ姿勢を身につけられるように、どのような工夫がなされているのかという点です。具体的には、「デジタルツールの活用」・「学ぶための手立てや工夫、アイデア」・「学びのフィードバックや自己評価」に着目して議論が行われました。以上でございます。

【古川教育長】

ありがとうございます。

それでは、国語の教科書の採択に入ります。国語については4者ございます。本種目における選定委員会での主な意見の概要を簡潔に報告してください。

【森田教育次長】

国語については、「順序立てる」・「比較する」といった、子どもたちが自分の意見や考えを整理しまとめるための汎用的な力の育成や、学習の流れを提示するなど、学びの見通しを持つためのしかけや工夫について議論が及びました。

【古川教育長】

ありがとうございます。次に、各委員から、東大阪市で使用する教科書として相応しいと考えられるものを述べていただき、その上で議論をすすめていきたいと思います。まず、秦教育長職務代理者から御発言をお願いいたします。

【秦教育長職務代理者】

私は教育出版と光村図書を選びました。教育出版については、シンプルで使いやすく、子どもが自ら考えるようになるのではないかとという点と、教科書を開くと「言葉の地図」というものがあり、何を学ぶべきかが分かりやすく、また SDG s についても、持続可能な未来を創るためにということで丁寧に説明されていることから選びました。光村図書については、題材の後に、「学びへの扉」があることで、皆で話し合ったり、考えをまとめたりする機会があり、またデジタルコンテンツが豊富で、今後のデジタル教科書を見据えた取組が非常にありがたいと思いましたので選びました。

【堤教育委員】

私は発行者を選ぶ前に、1点述べたいことがございます。東大阪市では、未来を生きる子どもたちのために、2019 年 4 月に未来市民教育「夢^{トライ}TRY科」という市独自の教科で使用
するテキストが作成され、今年度よりデジタル化もされています。この教科では、森田教育次長からも説明がありましたように、探究的な学びで世界へと大きな方向性を持って、未来市民教育が始められました。未来市民として、どのようにミッションを果たしていくのか、子どもたち自身の幸福と、日本や世界、地球規模で物事が考えられるようになる子

どもを育てていくのかという観点で、その目標達成のために、最適な教科書はどの教科書なのかということを考えて選ばせていただいております。

国語については、三省堂が良いと思っています。国語能力を育成するために、語彙力や言語能力、言語の使い方が重要だと思いますが、語彙力や言語能力を高めることで、物事を考えることが可能になります。三省堂の教科書において、語彙力を伸ばすことについては、語彙の広がりであるとか、漢字の仕組みを学ぶことに関しても、「漢字を身につけよう」など、本文以外のところでも、非常に充実した内容となっています。さらに、「思考の方法」などを通じて、学びのプロセスが明確に示されていることから選びました。

【田中教育委員】

国語については、文章を読んだ上で、感じる又は思うだけでなく、どのような考え方や思考方法をとっているかを重視して選ばせていただきました。全ての教科書が良かった中で、どれかを決めるということであれば、光村図書と三省堂を選びます。この2者については、思考方法や考え方の流れが良いと思いました。

【山中教育委員】

私も光村図書を選びました。先ほど、委員の方々が述べられた点に加えて、最近国際的な紛争もある中で、戦争への考察が記載されており、生徒の皆さんにそういうことを考えていただく機会になるかと思います。また、多様性の時代において、光村図書の教科書では、様々なジャンルを様々な角度や視点から学習することができるため選びました。

【古川教育長】

私は光村図書を選びました。この教科書では、巻頭の見開き「思考の地図」で、思考法の紹介をされております。先ほど、森田教育次長から話がありましたが、学び方を学ぶという視点が、今回の各教科書に大きく反映されていて、その点が、新時代の教科書を選ぶ上でのポイントになるかと思っています。特に光村図書の教科書には、別冊で語彙ブック

があり、自分にどのような力がついたのかが分かりやすく、学習の見通しをつけられるようにもなっていることから、光村図書を選びました。

5人の意見をまとめますと、光村図書が4人で、三省堂が1人で、教育出版が1人ということです。光村図書を推す声が多いようですが、堤教育委員はいかがでしょう。

【堤教育委員】

全ての教科書が文科省の検定を合格しており、それぞれの工夫や学びが成立するような仕組みがあるかと思いますが、私としては、語彙力を高めていく具体的な手立てがたくさんある方がよいなと思っています。例えば、辞書引きをもっと授業時間に取り入れてもらえるとよいなと。多数の支持がある光村図書も大変優れている教科書だと思いますが、語彙力の育成に重きをおいて、国語力アップを図っていただきたいです。漢字の成り立ちを学ぶことから、もう一度国語教育を見つめなおす機会があればよいなと思っています。

【古川教育長】

ありがとうございます。光村図書の教科書には、「語彙ブック」があり、教員の授業展開によっては豊かな語彙力の獲得にも寄与できる部分もあるかと思いますが、光村図書でよろしいでしょうか。

【堤教育委員】

はい。

【古川教育長】

それでは、国語については、光村図書に決定いたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

【各委員】

(異議なしの声あり)

【古川教育長】

御異議なしと認めます。国語については光村図書に決定いたしました。

続きまして、書写の教科書の採択に入ります。書写については4者ございます。本種目における選定委員会での主な意見の概要を報告してください。

【森田教育次長】

書写については、日常や社会生活における活用場面や文字が持つ魅力、個性と多様性を尊重し、子どもたちが自分らしさを大切にできる工夫について論議が及びました。

【古川教育長】

ありがとうございます。それでは、秦教育長職務代理者から御発言をお願いいたします。

【秦教育長職務代理者】

私は東京書籍を選びました。その理由としては、YouTube 世代にはありがたい動画の質が高く、デジタルコンテンツが豊富であるという点です。

【堤教育委員】

私は、国語との関連性を踏まえて選んでいくのが良いと考えています。光村図書の教科書も優れているとのことですし、今回は国語の採択と同じ光村図書を選びます。

【田中教育委員】

4者とも魅力的で、三省堂・教育出版・光村図書にはオリジナリティ^{あふ}溢れる色々なアイデアがありますが、東京書籍を選びました。社会人として身に付けるべき知識が、どの教

科書にもありますが、東京書籍の教科書が一番分かりやすく感じました。

【山中教育委員】

私は光村図書を選びました。田中教育委員がおっしゃられるように、各者において様々な良いポイントがある中、光村図書については、他と比べるとストロングポイントが多いと思いました。例えば、メールでのやり取りが日常で行われている中での手書きの良さや、一方で、もちろんメールの良さについても記載されており、また生徒自身が、自分のサインを作ることができる点については、自己肯定感を得られる一つの取組になるかと思い、光村図書を評価させていただきました。

【古川教育長】

私は、光村図書が良いと思いました。その理由は、山中委員がおっしゃられたことと重なりますが、一般的に書写は、習字の書き方が中心になるかと思いますが、現代社会では、文字で表現する手法が多様になってきています。例えば、パソコンを使うにしても、どのフォントを選んだ方が相手に伝わりやすいのか、又は心がこもったような雰囲気が出るのか、色々なことを考えながら選ばれているかと思います。またペン字や、そういったものによるサインも、非常に個性的になってきており、このようなことを一通り学びながら、自分の選んだ表現方法を、文字を表現するということを獲得していく意味で、光村図書が非常に良いと思いました。さらに、左利き用のデジタルコンテンツもあり、非常に丁寧に解説していると思いました。

意見が東京書籍と光村図書に分かれており、この場合は決して多数決ということではありませんので、もう少し東京書籍の良いところを教えていただければと思いますが。

堤委員は、国語と同じ発行者で、種目間の連携が取れている方が良いということですか。

【堤教育委員】

はい。そのように思っています。

【古川教育長】

どの本も大変丁寧で分かりやすく作られている印象です。ちなみに、答申にも記載されていますが、光村図書では、「東大阪フォント」が紹介されています。現状、東大阪市以外で扱われているところを残念ながら見ませんが、自己肯定感の向上という観点では十分可能性があると思います。この2者について、他に御発言はございますか。田中教育委員はよろしいですか。

【田中教育委員】

私は、東京書籍を選びましたが、光村図書についても、先ほど教育長がおっしゃったように、「全国フォント見つけ隊」や有名人のサインを見ましたが、私も食い入るように教科書を見る場面があって、子どもたちが教科書を見た時に、これはおもしろいかもと思ってもらえるきっかけになると感じました。

【古川教育長】

光村図書に対する好意的な意見が多いようですが、他はいかがでしょうか。

【各委員】

(特になし)

【古川教育長】

それでは、書写については、光村図書に決定いたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

【各委員】

(異議なしの声あり)

【古川教育長】

御異議なしと認めます。書写については光村図書に決定いたしました。

続きまして、社会・地理的分野の教科書の採択に入ります。地理的分野については4者ございます。本種目における選定委員会での主な意見の概要を報告してください。

【森田教育次長】

社会・地理的分野については、探究課題に対して自分たちで問いを立てたり、議論を重ねたりするためのしかけや、地理的な見方・考え方を働かせて情報を集めたり、学びを深めたりするための工夫について、論議が及びました。

【古川教育長】

ありがとうございます。それでは、秦教育長職務代理者から御発言をお願いいたします。

【秦教育長職務代理者】

私は、帝国書院と東京書籍を選びました。他の教科書も、すごく良くできているのですが、この2者を特に選ばせていただいています。帝国書院については、東大阪市の記事が写真付きで紹介されており、また地図を意識した構成になっていて、情報量が非常に豊富に感じられることで、その場所だけでなく、広い範囲を比較して理解することができるのではないかという探究的な学びの視点で選びました。東京書籍については、近畿地方のことが丁寧に取り上げられており、地理を学ぶ上で、近畿地方を取り上げることで、まずは子どもたちが興味を持ちやすいのではないかと思いました。またデジタルコンテンツが豊富で、学びを深められる点と、写真と説明のバランスが良く、読みやすいという理由から選ばせていただきました。

【堤教育委員】

私は帝国書院を選びました。地理においては、地図帳を活用した学び方が明確になっている方が良いかと思いましたが、その点に関して、地図帳との関連性が非常に明確であることから帝国書院を選びました。

【田中教育委員】

私は、日本文教出版と帝国書院を選びました。特に、日本文教出版の方が、私の感覚としては、地理の見方や考え方が分かりやすく書かれていると感じましたので、地理を学習するにあたっては、日本文教出版が良いと思いました。

【古川教育長】

帝国書院はいかがですか。

【田中教育委員】

帝国書院については、答申にも記載されているとおり、「アクティブ地図」などによって地図が見やすく感じるので、素晴らしい教科書だと思います。

【山中教育委員】

私は、帝国書院を選びました。先ほどもお話がありましたように、地図帳が非常に良く、資料が豊富で見やすい点と、また帝国書院の教科書には、「アクティブ〇〇」という項目があり、地理では「アクティブ地理」ということで、学びを深く探究できる点を評価のポイントとしました。

【古川教育長】

私は、東京書籍が良いと考えました。地理の学習を進めていくための「地理を学ぶための5つのミカタ」が示されていて、また各章の「まとめの活動」で、探究的な課題が示さ

れているという点で、教育次長から話がありましたとおり、見通しをもって勉強していく、探究していく点について、新しい展開をされていると思ったため選びました。

全体としては、帝国書院が4人で、東京書籍が2人で、日本文教出版が1人ということです。帝国書院についても、「アクティブ地理」といった地図を活用した学び方が掲載されていますので、私も選ぶにあたって挙げてもいいかと思いました。4人が推されている中で、私も帝国書院も良いと思っています。それでは、社会・地理的分野については、帝国書院に決定いたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

【各委員】

(異議なしの声あり)

【古川教育長】

御異議なしと認めます。社会・地理的分野については帝国書院に決定いたしました。

続きまして、社会・歴史的分野の教科書の採択に入ります。歴史的分野については8者ございます。本種目における選定委員会での主な意見の概要を報告してください。

【森田教育次長】

社会・歴史的分野については、各資料やデータ、思考ツール、デジタルコンテンツを活用するための工夫や、子どもたちの興味関心をひきつけるための探究課題、歴史の見方・考え方を働かせるためのしかけについて論議が及びました。

【古川教育長】

ありがとうございます。それでは、秦教育長職務代理者から御発言をお願いいたします。

【秦教育長職務代理者】

私は、東京書籍と日本文教出版を選んでいきます。東京書籍については、デジタルコンテンツが豊富で、教科書が見やすく、歴史を学ぶ上で写真と文章の構成が良いと思います。また「みんなでチャレンジ」は、個人とグループ両方の振り返りに大変適していると思い、「深めよう」についても、復習するにあたっては非常に良いと思いました。日本文教出版については、こちらも同様にデジタルコンテンツが豊富で、まとめや振り返りが大切な点を復習しているのが非常に良く、また「歴史を掘り下げる」では、内容がより深く説明されているので、子どもが興味を持って、より探究してもらえないかと思ったため選びました。

【堤教育委員】

私は、山川出版社を選びました。内容がとても深くて、情報量がとても豊かであると思います。中学生にとって難解な部分もあることは承知の上で、高等学校で学習する歴史的概念というものを、非常に上手く解説されているという特徴があります。たとえ難しくても、やはり興味を持って日本という国を正しく歴史的に理解することは、子どもたちにとって大変重要な課題でもありますので、その点が一番果たされる教科書かと思ったため選びました。また、日本文教出版も良いと思っています。この教科書では、見開き2ページで、1時間の授業構成が考えられていますが、学習の課題や見方、その使い方、そして確認事項や表現という設定があって、授業時間の中で、個別最適な学びを成立させられるのではないかと思いますので選びました。

【田中教育委員】

私が歴史の教科書を選ぶ際に重視したことは、年表のインデックスが見やすいかどうかという点で、帝国書院と日本文教出版を選びました。また、令和書籍が一番印象に残っており、巻末に神話やおとぎ話である日本の成り立ちが書かれているのを見て、今までの教科書にない情報があって、すごく面白い教科書だと感じました。

【古川教育長】

3冊を推薦するという事でよろしいですか。

【田中教育委員】

はい。

【山中教育委員】

私は、帝国書院と東京書籍を選びました。帝国書院については、先ほどの地理でも同じように、「アクティブ歴史」で課題解決型の学習ができると思っています。また図や表も非常に見やすく、授業でもポイントをおさえながら、学習を進めることができるかと思っています。私は、帝国書院と東京書籍を選んでいますが、帝国書院が一番です。

【古川教育長】

私は、東京書籍が良いと思いました。各章の最後に「まとめの活動」があり、単に歴史の事項を覚えるにとどまらず、単元の学習を深めるための課題として、思考ツールを使った方法を多数紹介されています。歴史の勉強は、単に試験に出題されることを覚える以上の深みがあると考えており、きちんと考えるということ、戦争一つにしても、両方の立場になって考えることができるような工夫が、今後の教科書には求められてくると思いますので、そういう意味で、東京書籍は、その大切な見方・考え方が丁寧に記載されていると考えました。

5人の意見をまとめますと、日本文教出版が3人で、東京書籍が3人で、帝国書院が2人で、山川出版社が1人で、令和書籍が1人ということです。意見が分かれたましたが、何かこの教科書を採択するべきだという強い思いがございましたら、どなたでも構いませんので、お伺いしたく存じます。

【各委員】

(意見なし)

【古川教育長】

特にないようですので、意見が多かった日本文教出版と東京書籍に絞ってよろしいでしょうか。

【各委員】

(異議なしの声あり)

【古川教育長】

それでは、この２者の中で、こちらの方が良いという意見があれば、御発言をお願いします。

【各委員】

(特になし)

【古川教育長】

両方とも、年表インデックスは充実していると思いますがいかがでしょうか。しっかりと考えられるような構成には、両方ともなっていますが、何か他に観点がございましたら。秦委員は、両方を選ばれていますが、どちらかといえばどちらになりますか。

【秦教育長職務代理者】

どちらかというと、日本文教出版です。

【古川教育長】

それはどういった理由ですか。

【秦教育長職務代理者】

まとめの振り返りが大切なところを復習している点と、先ほどの繰り返しにはなりますが、歴史を掘り下げるというところでは、より深く内容について説明している点です。

【古川教育長】

他に両者を比べて、こちらを選びたいという意見はございますか。

【各委員】

(特になし)

【古川教育長】

そうしましたら、ただいま秦教育長職務代理者において、どちらかというとな日本文教出版ではないかというお話でしたが、そのように決定してもよろしいでしょうか。

【各委員】

はい。

【古川教育長】

それでは、社会・歴史的分野については、日本文教出版に決定いたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

【各委員】

(異議なし)

【古川教育長】

御異議なしと認めます。社会・歴史的分野については日本文教出版に決定いたしました。

続きまして、社会・公民的分野の教科書の採択に入ります。公民的分野は6者あります。本種目における選定委員会での主な意見の概要を報告してください。

【森田教育次長】

社会・公民的分野については、問いかけや対話を重視した探究的な学びの促進や、具体例を通じて実践的な学びを進める仕掛け、持続可能な社会を考えることについて論議が及びました。

【古川教育長】

ありがとうございます。それでは、秦教育長職務代理者から御発言をお願いいたします

【秦教育長職務代理者】

私は教育出版と帝国書院を選んでいます。教育出版については、「持続可能な社会に向けて」の中に、トライという項目があります。皆で考えて、意見を述べ合う機会があり、結果として何が大切かを学ぶ機会になるのではないかということと、また「公民学習を始めるにあたって」があることで、公民が意味することを考える良いきっかけになると思いました。帝国書院については、「アクティブ公民」があることで、実際に起こりうる課題を、どのように皆で解決していくかを話し合う機会があり、文章も読みやすく、とても良いと思います。また経済についても、直近の環境が取り上げられており、例えば半導体の不足などについても記載されている点は、我々に身近な問題ですので、本当に良いことだと思いました。

【堤教育委員】

私は教育出版と日本文教出版を選びました。教育出版については、公民は子どもたちにとってかなり理解が難しい内容もありますので、学びに向かいやすい工夫がされている点が良いと思いました。それから、メディアのあり方に関する記述があり、毎日のニュースを読み解く力や、政治的な内容、世界情勢も含めた形で、それらが理解できる素地を作る必要があるかと思い、その点においてよくできているので選んでいます。日本文教出版については、今申し上げたように、公民分野では、一人で探究的な学びをすることは、中学生では難しい内容があると思うので、やはりグループワークがやりやすい教科書が望ましいのではないかと。例えば、自分はあまり興味を持っていないけれど、友達が興味をひく発言をしてくれるような多角的・多面的に考察できる場が必要かと思います。そのためのグループワークの教材として、最もうまく設定されているのではないかと思います。また章末に、興味や関心、発展的な内容を考えるページが設けられていますので、子どもたちがグループで学んだり、先生から色々なアドバイスからもらったりした後で、関心を深めていくことができると思いました。

【田中教育委員】

公民分野については、とても迷いました。どの教科書も素晴らしくて、例えば、「まちのバリアフリーを探そう」、「国旗・国歌を考えよう」など、また法令も重要ですので、中学生の頃から法令集を見ておくのも良いことだと思いましたし、最近国が推進している男性の育児休暇などの記載があって、どれも甲乙つけがたく素晴らしかったのですが、選ぶことが難しいですが、一番とするならば帝国書院です。全体的にバランスが良く、見やすいのではないかと個人的には思いました。

【山中教育委員】

私は、帝国書院と東京書籍を選びました。どの分野もそうですが、答えがない世界で、答えと言いますか、自分の考えを持ち、かつ相手の考えを傾聴することが大事だと思います。

すので、堤教育委員がおっしゃられるように、「アクティブ公民」で対話を深められ、相手の話を聞きながら学習できる点と、どの教科書も適宜学べるようになっている中で、それをベースとした時に、資料や動画が充実している点などを評価してこの2者を選びました。

【古川教育長】

私も、公民的分野は大変迷いましたが、現在紛争が起こっていますパレスチナ問題について、中学生にも知っておいてほしいという観点を最終的には重視しました。その点で考えますと、日本文教出版も書いてありましたが、私は東京書籍や帝国書院を選びました。

公民も意見が分かれてましたが、帝国書院が4人で、東京書籍が1人で、教育出版が2人で、日本文教出版が1人ということです。帝国書院を推す声が多いようですが、いかがでしょうか。堤委員はよろしいでしょうか。

【堤教育委員】

はい。

【古川教育長】

それでは、社会・公民的分野については、帝国書院に決定いたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

【各委員】

(異議なしの声あり)

【古川教育長】

御異議なしと認めます。社会・公民的分野については帝国書院に決定いたしました。

続きまして、地図の教科書の採択に入ります。地図については2者ございます。本種目

における選定委員会での主な意見の概要を報告してください。

【森田教育次長】

地図については、深い読み取りを促すための問いの設定や、文化的内容や自然災害、防災情報など、多くの資料から子どもたちが主体的、協働的に学ぶための工夫など、多面的・多角的な学びへの意識について論議が及びました。

【古川教育長】

ありがとうございます。それでは、秦教育長職務代理者から御発言をお願いいたします。

【秦教育長職務代理者】

私は、帝国書院を選んでおります。その理由として、情報量が多く、地図から他の事柄も学べる点と、また広範囲の比較が一目瞭然でできることと、現在日本でよく起きている自然災害についても豊富に掲載されている点から帝国書院を選んでいきます。

【堤教育委員】

帝国書院を選んでいきます。地図に関しては、圧倒的な信頼を寄せる発行者ですので、この地図帳を使って子どもたちにどんどん学んでほしいと思います。

【田中教育委員】

地図の教科書として、文字というより、シンプルに地図が見やすいという点で帝国書院を選びました。

【山中教育委員】

私も帝国書院を選びましたが、東京書籍では、海の形と言いますか、海嶺^{かいいい}が描写されていて、日本の領土を考える意味で、色々と思うところがあるのではないかなと感じて、こ

の点はストロングポイントだと思います。ただ、全体的にデータ量が多いなどの理由から考えますと、帝国書院を選びます。

【古川教育長】

私も、どちらかと言えば、帝国書院を選びたいと考えております。理由としては、「地図で発見！」を見ていますと、老舗(しにせ)といえども、色々と挑戦して、発展的に教科書づくりに取り組んでおられると感じたからです。

地図については、5人とも帝国書院ということで、地図については、帝国書院に決定いたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

【各委員】

(異議なしの声あり)

【古川教育長】

御異議なしと認めます。地図については帝国書院に決定いたしました。

続きまして、数学の教科書の採択に入ります。数学については7者ございます。本種目における選定委員会での主な意見の概要を報告してください。

【森田教育次長】

数学については、学んだことを生活にどう活かすかを、教科横断の視点などで考えられる工夫や、補充問題やデジタルコンテンツによる解説で理解を深めたり、問題発見・解決の流れによって意欲的に学んだりするためのしかけについて、論議が及びました。

【古川教育長】

ありがとうございます。それでは、秦教育長職務代理者から御発言をお願いいたします。

【秦教育長職務代理者】

私は、啓林館と東京書籍を選びました。啓林館については、すべての例題に対しての動画解説がある点、まず学校の教科書を理解することが何より大切である中で、自宅でも基礎・基本を授業同様に復習できて、さらに応用問題を解くにあたっても、補充問題も充実しているという点で選びました。また、これは補足にはなりますが、東大阪市の花園ラグビー場が掲載されているので、子どもたちが問題を見る上で、親しみを持ってもらえるのではないかと思います。東京書籍については、「算数から数学へ」という繋がりがはじめに書かれており、そもそも算数から数学とはどういうことであるかを理解してもらうことは、とても大事なことだと思いました。また、デジタルコンテンツがやはり豊富で、フラッシュカードや類題などによって理解を深められる点と、補充問題も充実している点で東京書籍を選びました。

【堤教育委員】

私は啓林館を考えています。特に、数学においては、個別最適の学びを促進することが重要だと考えており、そのためのデジタル教材・資料・仕掛けの開発が、非常に優れていると思います。また森田教育次長の説明にもありましたが、生活にどう結びつけていくのかという点においては、日常生活の知識や学習によって得た知識を、いかにして科学的な視点で見ることができるかという疑問や課題を見つける仕掛けがあるので、啓林館を選びました。

【田中教育委員】

数学については、年次が上がれば上がるほど数学が嫌いになってくる子どもがいるという話を聞いたことがあり、少し難しいから、取り組みづらいからなどの理由が挙げられるとのことです。中学生にとっては、汎用的で分かりやすい教科書が向いているのではないかと思います。そういう観点で、東京書籍と啓林館を選びました。

【山中教育委員】

私も東京書籍と啓林館を選びました。田中委員がおっしゃられた、将来数学が嫌いになってしまう点と、なぜ今数学を勉強しなければいけないのかという点、先ほど堤教育委員からもお話がありましたが、職業などといった日常の事柄と数学を結び付けている点が、啓林館と東京書籍のストロングポイントかと思いましたので、この2者を選びました。

【古川教育長】

私は、啓林館が良いと思いました。先ほども話題に出ておりましたが、数学については、一度分からなくなってしまうと、先に進めなくなってしまうおそれが非常に高く、意欲も失ってしまいかねない教科である中、啓林館のデジタルコンテンツの解説動画は、予習にも復習にも活用しやすく、また字幕などといったより広い範囲への配慮もされている点から、非常に丁寧に数学の学習に向かうことができるのではないかと考えました。

5人の意見を聞きましたが、啓林館が5人で、東京書籍が3人でした。東京書籍も良いですが、皆さん啓林館を評価されているようですが、啓林館でよろしいですか。

【各委員】

はい。

【古川教育長】

それでは、数学については、啓林館に決定いたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

【各委員】

(異議なしの声あり)

【古川教育長】

御異議なしと認めます。数学については啓林館に決定いたしました。

続きまして、理科の教科書の採択に入ります。理科については5者ございます。本種目における選定委員会での主な意見の概要を報告してください。

【森田教育次長】

理科については、学習内容を身近に感じる話題や、仕事との関連を取り上げることで、科学に関する興味を持たせたり、将来の仕事に関心を広げたりする工夫や、レポート作成や探究する学びの進め方についてなど、見通しを持った学びへのしかけについて論議が及びました。

【古川教育長】

ありがとうございます。それでは、秦教育長職務代理者から御発言をお願いいたします。

【秦教育長職務代理者】

啓林館と学校図書を選びました。啓林館については、デジタルコンテンツが豊富で非常に魅力的である点、また「つながる学び」では、今までの学習学年が書かれていて、参考になる点、そして写真も豊富で説明が分かりやすく、学習のまとめがあることで押さえるべきポイントが書かれている点で選びました。学校図書については、実験の手順の写真と解説が分かりやすく、デジタルコンテンツも豊富で、補充資料も充実しています。また「思考をさらに深める」には、全国学力学習状況調査や高校入試の手助けが記されている点から学校図書を選びました。

【堤教育委員】

私は啓林館を選びました。理科については、色々な関心を高めていく点も含めて、観察・実験の技能などについても、他の教科書会社もまとめてくださっていますが、啓林館

においては、非常にピンポイントで分かりやすくなっているかと思います。また、実験や観察の後に、子どもたちがきちんとレポートを書けるように、「探Qシート」などといったレポートの進め方についても、先生方にとって、子どもたちと一緒に進めやすい教科書になっているかと思います。

【田中教育委員】

理科については、探究心やワクワクを感じながら、実験や学びを進めてもらいたい気持ちがあり、教育アドバイザー「理科マス！」や「広がる科学の世界」コーナーなどは非常に面白くて、どの教科書も良いですが、一番印象に残ったのは、啓林館の「探Qシート」でした。これを見ていると、そんなことがあるのかとワクワクを感じられたので、啓林館を選びました。

【山中教育委員】

私も啓林館を選びました。探究的という観点で、様々な工夫がされているため選びました。

【古川教育長】

私は、啓林館が良いと思いました。やはり探究は、今回私たちが、教科書を選定する際の縦軸のテーマの1つとして重要なもので、また東大阪市としても、探究活動を推進しております。そういう点でも、皆様からご意見があったように、この「探Qシート」をはじめ、非常にわくわくするような構成に力が入っていると感じました。

みなさんの意見をまとめますと、どなたも啓林館を推されていますので、啓林館でまとめたいと思いますがよろしいでしょうか。

【各委員】

はい。

【古川教育長】

それでは、理科については、啓林館に決定いたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

【各委員】

(異議なしの声あり)

【古川教育長】

御異議なしと認めます。理科については啓林館に決定いたしました。

続きまして、音楽の教科書の採択に入ります。

はじめに、教育委員の皆様にお諮りいたします。音楽につきましては、一般と器楽合奏の2種目がある中で、互いの種目の関連性が強いことから、音楽につきましては、一般と器楽合奏で同じ発行者の教科書を採択いたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

【各委員】

(異議なしの声あり)

【古川教育長】

御異議なしと認めます。よって、音楽につきましては、一般と器楽合奏で同じ発行者の教科書を採択することといたします。音楽については、一般と器楽合奏ともに2者ございます。

それでは、音楽について、選定委員会での主な意見の概要を報告してください。

【森田教育次長】

音楽については、1年間の学習を見通しやすくするための工夫や、音楽を形づくって

る要素を意識しつつ、デジタルコンテンツを活用しながら自ら学びを進めるための工夫について、論議が及びました。

【古川教育長】

ありがとうございます。それでは、秦教育長職務代理者から御発言をお願いいたします。

【秦教育長職務代理者】

音楽については、教育芸術社を選びました。まず創作ツールがあることで、自分で作曲ができる点、イメージと音楽のページでは、音楽鑑賞において作者の意図を知る特別な役割をしているので、非常に良いと思いました。また「指揮をしてみよう」も、リズムを体で感じる良い項目だと思いましたので教育芸術社を選びました。

【堤教育委員】

教育芸術社が良いと思います。音楽を学ぶ時に、歌唱・鑑賞・創作という3つの分野にわたって、非常にバランスが良いと思いましたので選びました。

【田中教育委員】

私は教育芸術社を選びました。とても見やすく、そして分かりやすく書かれていましたので選んでおります。

【山中教育委員】

私も教育芸術社を選びました。ストロングポイントは、他の委員の方がおっしゃられたとおりですが、教科書の中に、音楽とはという導入があり、私は中学生の頃、音楽とは何だろう、どう活かすのだろうと疑問に思っていて、そういう人もいるかなと思いますので、こういう問いかけを見て、すごく分かりやすいと感じましたので教育芸術社を選びました。

【古川教育長】

私は教育芸術社を選びました。音楽の教科書は、従来のおり紙媒体だけであると音が出ないので、どれだけデジタルツールが充実しているかという観点をもって2者を比べた結果、教育芸術社の方が充実していると感じました。

2者のうち、全員が教育芸術社を推しておられるので、音楽については、一般及び器楽合奏ともに教育芸術社に決定いたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

【各委員】

(異議なしの声あり)

【古川教育長】

御異議なしと認めます。音楽については、一般及び器楽合奏ともに教育芸術社に決定いたしました。

続きまして、美術の教科書の採択に入ります。美術については3者ございます。本種目における選定委員会での主な意見の概要を報告してください。

【森田教育次長】

美術については、小学校での学びとのつながりとこれからの学びの発展や、デジタルコンテンツで技法を学んだり、他教科と関連させたりしながら学習を進める工夫について論議が及びました。

【古川教育長】

ありがとうございます。それでは、秦教育長職務代理者から御発言をお願いいたします。

【秦教育長職務代理者】

私は光村図書を選びました。まず、デジタルコンテンツが豊富であることと、また表現

のところには吹き出しがあり、なかなか考え方のきっかけがつかめない子どもにとって、こんなふうに考えればいいのかとヒントをもらえることで、考え方の参考になる点が良いと思ったため選びました。

【堤教育委員】

私は、日本文教出版と開隆堂を選んでいきます。日本文教出版では、SDG s に関わるテーマを4つ設定して、テーマごとに作品が紹介されています。これはおもしろいなあと思い、少し違う角度で作品を見ることができると思いましたので、日本文教出版を選びました。開隆堂については、子どもたちが作品を見る時に、親しみのある作品が多く掲載されており、図画工作から美術というのは、少し難しい点があると思いますが、小学校からの繋がりを意識して教科書を作られていると感じましたので選びました。

【田中教育委員】

美術については、色々な教科書を見てみると、肌触りや手触りが良いなどといった感覚すら覚えてきます。3者とも素晴らしい教科書でしたが、どちらかと言えば、今までの美術は、作品を見ることで、すごいなあ、感動するなあというイメージがありましたが、光村図書については、実技面において、こうすれば書くことができるという参加型のような内容でしたので、光村図書を選びました。

【山中教育委員】

3者とも非常に良いと思っていて、それぞれの特徴があると思いました。もし1者を選ぶということであれば、開隆堂を選びました。先ほどお話がありましたが、非常に作品が素晴らしくて、興味を高めながら、生徒作品や生徒の言葉があることで、作品への発想や表現の工夫に繋がり、最終的に技能・知識の向上に繋がるという仕掛けがありました。ただ、いずれにしても、3者それぞれの特徴がありましたので、なかなか選ぶのが難しく感じました。

【古川教育長】

私は光村図書を選びました。先ほど、田中委員からお話がありましたが、技法に関する動画があります。これは画期的なことだと思っており、絵を描くといっても、真っ白な状態から完成まで、丁寧に導入や技法を使って書くということは、紙面の関係で、教科書で表現することが難しかったと思いますが、デジタルコンテンツの導入によって、具体的に絵を書く方法を解説しているということで、こういう時代になったのかと感銘いたしました。また、日本絵画の掲載において、和紙を使用しているということで、素材も大切に考えられており、目だけでなく、触感としても作品を見せています。そして、何よりも私が感銘したことは、「ゲルニカ」について、背景まで詳しく書かれていることです。現代において、「ゲルニカ」という人類史的な絵画を解説している点は、私の心を強く打ちました。

5人の意見をまとめますと、光村図書が3人で、開隆堂が2人で、日本文教出版が1人ということで、意見が分かれておりますので、追加の御推薦・御意見があればと思いますがいかがでしょうか。

【山中教育委員】

私は、先ほども申し上げましたが、3者ともに非常に良いと思っていて、光村図書を3人が選ばれているということで、確かにデジタルコンテンツが良くて、また別冊資料が充実している点で、生徒の技能面の指導を行う上で大変使いやすいと思いますので、光村図書も良いと思います。

【古川教育長】

ありがとうございます。堤教育委員はいかがでしょう。

【堤教育委員】

3者それぞれに良い点があつて、選ぶのが難しいですが、美術を学ぶのは中学校までです。美術に関するある程度の内容を、中学校で身に付けてほしいと考えています。高校生になると選択科目になりますので、実際の技術面の分かりやすさと、教養としての美術ということで、ぜひ先生方に光村図書の教科書で授業していただけたらと思います。

【古川教育長】

ありがとうございます。それでは、美術については、光村図書に決定いたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

【各委員】

(異議なしの声あり)

【古川教育長】

御異議なしと認めます。美術については光村図書に決定いたしました。

続きまして、保健体育の教科書の採択に入ります。保健体育については4者ございます。本種目における選定委員会での主な意見の概要を報告してください。

【森田教育次長】

保健体育については、系統性を意識した学びや、学習内容のアウトプットを促す工夫、性の多様性や時代に応じた捉え方の変容に関して論議が及びました。

【古川教育長】

ありがとうございます。それでは、秦教育長職務代理者から御発言をお願いいたします。

【秦教育長職務代理者】

私は大修館を選んでおります。理由としては、今回オリンピックでも話題になりましたが、「性」についての固定的な考えに気づこう」がやはり大事なことだと思いました。また、全体を通して、心身ともにどのようにすれば健康を保てるかということが、教科書を読んでいて、強く感じられたため選ばせていただきました。

【堤教育委員】

私は Gakken を選んでいます。Gakken の教科書を見ますと、統計的なデータが多く載っていますので、とても参考になると思った点と、子どもたちの健やかな成長に関するデジタルコンテンツも閲覧でき、またウェルビーイングについても様々な学習の手だてがあることから選びました。

【田中教育委員】

私は東京書籍を選んでいます。VR（仮想現実）を使って、犯罪被害防止などを体験的に学ぶことができる点がすごく面白いと思いましたので選びました。

【山中教育委員】

私は Gakken を選びました。「探究」が教科書を採択する上でのキーワードですので、ワークシートや各章の最後にある「探究しようよ！」というコーナーがある点で、やはり考えることが非常に大事だと思い、その点を評価して、Gakken を選びました。

【古川教育長】

私は Gakken を推します。先ほどお話がありましたが、探究について、内容がきちんと作られているなと思いました。各章の最後に「探究しようよ！」というコーナーがあり、学習した内容を使って、子どもたちが考えられる工夫があります。また、見開きに課題の発見、課題の解決、学びの活用の流れがまとめられています。最初に森田教育次長から話

がありました探究という観点で、東大阪市の縦軸の教科書に相応しいかと思いました。

5人の意見をまとめますと、Gakken が3人で、大修館が1人で、東京書籍が1人ということです。Gakken を推す声が多いようですが、田中委員と秦教育長職務代理者はいかがでしょうか。Gakken でもよろしいでしょうか。

【秦教育長職務代理者・田中教育委員】

はい。

【古川教育長】

それでは、保健体育については、Gakken に決定いたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

【各委員】

(異議なしの声あり)

【古川教育長】

御異議なしと認めます。保健体育については Gakken に決定いたしました。

続きまして、技術・家庭（技術分野）の教科書の採択に入ります。技術分野については3者ございます。本種目における選定委員会での主な意見の概要を報告してください。

【森田教育次長】

技術分野については、情報モラルや知的財産権などのこれからの時代に必要な力や、子どもたちの興味関心を引くために学習内容に関する専門家の思いに触れる工夫などについて論議が及びました。

【古川教育長】

ありがとうございます。それでは、秦教育長職務代理者から御発言をお願いいたします。

【秦教育長職務代理者】

私は開隆堂を選びました。実習例のプロセスが非常に丁寧に書かれている点と、また世界に誇るクロマグロの完全養殖について掲載されており、この夏休みに、近畿大学で東大阪市の中学生が学ぶ機会があり、研究元で生物育成の技術を知って、新しいことにチャレンジしてほしいという願いがあることと、情報技術の内容がとても詳しく掲載されている点で選びました。

【堤教育委員】

私も開隆堂を選んでいます。ユニバーサルデザインのことが記載されているのはもちろんのこと、デジタル教材の開発に関する専門家のインタビュー記事があって、色々な仕事に従事する方の思いなどをインタビューで聞いている点が評価できると思います。やはり技術者の方々の思いを、中学生の時に触れることや、理解することはとても大切だと思いましたので選びました。

【田中教育委員】

技術については、開隆堂を選びました。巻頭に、『ドラえもん』のひみつ道具と現在の技術を比べたらどうなるかという話があり、私も学生時代に、『北斗の拳』のケンシロウの「北斗百裂拳」が、どんなスピードで撃たれているのかということを計算したことがあって、答えは忘れてしまいましたが、そういったワクワクに繋がる要素があるかと思いました。どの教科書も素晴らしいですが、この『ドラえもん』の話がすごく印象に残っていて、秘密道具を実物にすると、こういう技術がいるのかという興味などが、中学生に芽生えてくれたらいいなと思って選びました。

【古川教育長】

とても大事な視点だと思います。

【山中教育委員】

私も開隆堂です。

【古川教育長】

私も開隆堂を選びました。「小学校や他教科のつながり」という項目が掲載されていて、ここに大事な視点があると思います。また補助教材では、様々な学習内容が網羅されています。

子どもたちが、自分ごととして考えやすい工夫がある点も、非常に共感いたしました。

技術については、いずれも開隆堂を推す声が多いようですので、ここでまとめさせていただきます。それでは、技術分野については、開隆堂に決定いたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

【各委員】

（異議なしの声あり）

【古川教育長】

御異議なしと認めます。技術・家庭（技術分野）については開隆堂に決定いたしました。

続きまして、技術・家庭（家庭分野）の教科書の採択に入ります。家庭分野については3者ございます。本種目における選定委員会での主な意見の概要を報告してください。

【森田教育次長】

家庭分野については、日常生活に必要な実践的なスキルや、多様な生き方や家族の在り方、性の多様性、生活と文化のつながりを感じながら学びを進められる工夫について論議

が及びました。

【古川教育長】

ありがとうございます。それでは、秦教育長職務代理者から御発言をお願いいたします。

【秦教育長職務代理者】

私は開隆堂を選びました。消費、生活、環境に関する記載内容が充実している点、高校生になると活動範囲が広がりますので、様々な購入方法、現金以外の支払いも最近増えてきているという記載は、とても大事なことであると思います。また、商品購入のポイントについて、簡単にインターネットで物が買えますので、商品購入にはどういうことに気をつけたらいいのかという点が書かれており、さらに、現在の様々な家族、家庭に関する掲載も充実している点から開隆堂を選びました。

【堤教育委員】

私も開隆堂を選んでいます。家庭科を学ぶ上での系統性と言いますか、その点が分かりやすいです。衣服のことや、それをどのように消費者として考えていくのか、また日常生活とともに、家族のあり方を学ぶようになっている点が、現在様々な形の家族がありますので、そういうことを考える手だてとして、この教科書が非常に有用であると思います。また、他教科との関連はもちろんのこと、例えば理科の実験と食に関する内容は関連性が強い中で、そういう内容についても記述があり、田中委員がおっしゃるようなワクワクまではいかないかもしれませんが、興味や関心を持つことができるような体験などの具体的な例もあるので、子どもたちにとって学びやすい教科書かと思います。

【田中教育委員】

家庭科につきましては、生活スタイルによって変わりますが、豆知識とすごく相性が良いかなと思っています。例えば、この洗剤では汚れは落ちないけれど、こういう洗

剤を使ったら落ちるよといった豆知識が活きてくるかなと思ったので、東京書籍を選びました。豆知識を推している記載があって、どの教科書も良かったですが、社会と家庭科の親和性が高いと思いました。

【山中教育委員】

私は開隆堂を選びました。時代がどんどん変わっていく中で、先ほどもお話がありましたが、多様な家族構成の取扱いが多いことから、そういう変化に対応していく点と、冒頭申しあげましたように、様々に変化していく中で、子どもたちに考えてもらい、多様な意見を持つことを促すような構成にもなっていることから開隆堂を選びました。

【古川教育長】

私は開隆堂を選びました。秦委員がおっしゃられましたが、様々なお金の使い方や生活情報が、目まぐるしく変わってきていますが、このことについて、一定の知識と考え方や、どれを選択するのかということについて、様々に学ぶことができると考えました。家族のあり方についても詳しく書かれていて、考えさせられるポイントが、よく整理されていると思います。

5人の意見をまとめますと、開隆堂が4人で、東京書籍が1人ということです。開隆堂を推す声が多いようですが、田中委員はいかがですか。開隆堂でも良いのでしょうか。

【田中教育委員】

東京書籍が良いと思っていますけれど、開隆堂も良いと思っています。

【古川教育長】

ありがとうございます。それでは、家庭分野については、開隆堂に決定いたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

【各委員】

(異議なしの声あり)

【古川教育長】

御異議なしと認めます。技術・家庭（家庭分野）については開隆堂に決定いたしました。

続きまして、英語の教科書の採択に入ります。英語については6者ございます。本種目における選定委員会での主な意見の概要を報告してください。

【森田教育次長】

英語については、デジタルコンテンツの活用や、ペア・グループ活動を通じて自分の意見や考えを英語で表現するための工夫、明確なゴール設定、自分ごとに置き換えた学習内容や課題設定、小学校からの学びの連続性について論議が及びました。

【古川教育長】

ありがとうございます。それでは、秦教育長職務代理者から御発言をお願いいたします。

【秦教育長職務代理者】

私は三省堂と東京書籍を選びました。三省堂については、「Language Focus」では、学習した文法が一番簡潔にまとめられていて、振り返りにとても良い点と、文章や段落が長くなく読みやすい点、また「For Self-Study」では、英語を学ぶ上での大切なポイントをシンプルに示している点、さらにデジタルコンテンツが豊富である点で選びました。東京書籍については、「Grammar for Communication」において、その章で学習した文法を簡単に振り返られる点、またデジタルコンテンツが豊富である点、さらに「Real Life English」では、実際の生活の中で使われる会話などがまとめられており、とても便利であるということで選びました。

【堤教育委員】

私は、本当にずっと山中委員がおっしゃっているように、すべての教科書が、とても充実していると思います。そして、新たな観点で作られているとも思っています。英語についても、先ほどの未来市民的な考え方から述べますと、英語の習得は本当に大事なことです。そのため、それぞれの発行者が、子どもたちのために、どのように英語におけるプレゼンテーション能力も含めた5技能を身に付けるべきなのか。この点については、非常に検討を重ねていただいていると思います。その中で、私は三省堂に決めました。「Small Talk」などをはじめとした、内容に入りやすいと言いますか、子どもたちが自ら英語を発しやすい工夫がされていると思います。また、題材の見直しを随分行われていると思いました。題材の見直しの中で、環境に関するテーマを記述している単元がありますが、英語で世界の環境のことを学ぶことはとても大切なことであると思いますので、三省堂に決めました。

【田中教育委員】

英語については、英語に対して苦手意識を持っている日本人が多いと言われる中で、その理由として、50歳の方が50歳の英語を話さないといけないとってしまうからということ。6歳や中学生くらいの英語力の状況で、自分の年齢に対応した英語を話さないといけないというギャップによって苦手意識を持つ人が多いからということを知ったことがあります。やはり数学と同じく、英語も苦手意識を持たずに、できるだけ小学生から中学生へ、中学生から高校生につなげていきたいという点を考えますと、光村図書と啓林館では、特に英語の考え方やコツが記載されていたので、すごく良いなと思いました。

【山中教育委員】

私は三省堂と開隆堂を選びましたが、先ほど堤教育委員からお話がありましてとおり、各者どれも良くて、私の時代では、「This is a pen.」から始まって、コミュニケーションという観点にあまり関係がなかったのですが、その中で、中学校1年生から、コミュニケ

ーションに対して、どの教科書も力を入れています、三省堂についても、「Small Talk」を通じて会話をすることでコミュニケーションを図っています。また、三省堂の教科書では、「Think about Yourself」という項目で、自分ごととして考えるということで、より深く勉強する、探究していく中身になっています。開隆堂については、イラストが非常にポップで、親しみを感じやすい点があり、中学1年生では、コミュニケーションから始まって、高校では速読も求められるということで、速読の鍛錬がある点が、受験に向けての良いところかと思いました。

【古川教育長】

私は三省堂を選びました。選定委員会において、小学校からの学びの連続性について議論が及んだという報告がありましたが、三省堂は小学校から学んできたことを提示しつつ、継続性や滑らかな接続が意識されています。今では、英語は小学校から学ばれていますから、系統性という観点は非常に重要だと思います。どの教科書もよく工夫されていますが、系統性という点で三省堂を推したいと思います。

5人の意見を集約しますと、三省堂が4人で、東京書籍が1人で、啓林館が1人で、開隆堂が1人で、光村図書が1人ということです。意見が分かれており、三省堂が推す意見が多いようですが、田中委員は、三省堂はいかがでしょうか。

【田中教育委員】

三省堂についても、分かりやすい教科書だと思います。

【古川教育長】

ありがとうございます。それでは、英語については、三省堂に決定いたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

【各委員】

(異議なしの声あり)

【古川教育長】

御異議なしと認めます。英語については三省堂に決定いたしました。

続きまして、道徳の教科書の採択に入ります。道徳については7者ございます。本種目における選定委員会での主な意見の概要を報告してください。

【森田教育次長】

道徳については、昨今学校はもとより、社会問題となっている「いじめの問題」や「多様性・異文化理解」などについて、著名人の紹介やシンキングツール、デジタルコンテンツの活用を通して、子どもたちが様々な角度から問題を深く考えたり、自分の感情を表現したりする力の育成について論議が及びました。

【古川教育長】

ありがとうございます。それでは、秦教育長職務代理者から御発言をお願いいたします。

【秦教育長職務代理者】

道徳について、今回注目したことは、「命」・「いじめ」についてです。全体的に、どの教科書もそのことをとても丁寧に取り扱っていて、非常に迷いましたが、まず日本文教出版については、いじめに関する掲載が、目次も含めて丁寧にかつシンプルに書かれていて、また図を使って表すことで分かりやすい点、また「自分にプラスワン」は、内容についてより考えさせられるワンポイントレッスンになっている点を評価しました。次に、東京書籍については、少し違う視点ですが、現在東大阪市が考えている教育のうちの1つに、トライ&エラーを大事にする観点で、即席麺を考案されました安藤氏のことが書かれている点と、「プラス」という項目には、その章をさらに深く考え、振り返るようになってお

り、NHK の番組と連携している掲載もあって、より身近に教科書を読むことができる点を評価しています。次に、日本教科書については、『ドラゴン桜』の著者による表紙ということで、道徳自体が、家庭や社会において触れる機会が少なくなっており、核家族が増え、そういうことを聞かせてもらう機会が少なくなっている中で、最初に道徳に触れる機会が教科書であるという人も多いと思います。したがって、漫画によってそれを身近に感じてもらえるのではないかと、若い世代に手に取ってもらいやすいのではないかとという点、そして教科書自体が非常にシンプルであり、学び方を学ぶという点で評価しました。

【堤教育委員】

私は Gakken と日本教科書を選んでいきます。Gakken は、秦委員がおっしゃられましたが、いじめに関する内容について、漫画を題材にした形で分かりやすく伝えるという観点もありますし、もう一度、子どもたちに問いかけをしやすいものということで、教材が作られているかと思います。日本教科書については、すごくシンプルで分かりやすい教科書で、学びやすいという点が一番良いかと思います。また「ウェルビーイングカード」があり、ウェルビーイングの解釈については難しい点もありますが、それを子どもたちと一緒に、先生方もカードを使いながら考えてみるという機会ができると思ったので選びました。

【田中教育委員】

道徳については、言葉の意味ももちろんのこと、教えている先生の声色(こわいろ)や学ぶ教室の雰囲気などといった複合的な要素によって印象が変わっていくことを考えますと、そういう雰囲気に流されずに、いかにして道徳を受動的ではなく、能動的に学べるかを考えますと、やはりツールが必要かと思います。今までツールなどは、あまりなかったと思いますが、これからの道徳においては、ツールを使っていく方が良いのではないかと、「ウェルビーイングカード」を使っている日本教科書が良いと思いました。

【山中教育委員】

どの教科書も、非常に精選された題材を扱っていると思います。その中で、いかにディスカッションできるかという点と、他人の意見を聞く点や自分が今何を考えているかを引き出すような観点が必要かと思っています。まず、精選されている点を考えますと、Gakken では、秦委員もおっしゃられたとおり、命の尊さを重点的に取り扱っており、日本教科書については、先ほどから話されています「ウェルビーイングカード」について、他者の考えを聞くことで、より客観的に物事が見える、また多面的に物事が考えられると思いました。したがって、Gakken と日本教科書を選びました。

【古川教育長】

私は、道德の教科書を選ぶにあたって、どれが東大阪市の子どもたちにふさわしいかという視点を持ちました。具体的には2つの視点です。

1点目は、いじめ問題です。東大阪市の小中学校におけるいじめの認知件数は、令和4年度から5年度にかけて2,007件から2,355件と増え続けております。小学校では、この4年で5倍近く認知件数が増えております。いじめには、四層構造があると言われております。すなわち、いじめられる子・いじめる子・はやしたてる観衆・見て見ぬふりをする傍観者の四層です。日本では、この傍観者の割合が多いと言われており、いじめられる子の多くが、友達が止めてほしかったと言っています。「いじめに関して、関係ない人はいない」ということを明確にし、皆で乗り越えるために力を合わせていくことが大切だと考えます。その意味から、発行者の中で、この四層構造を図解して明確化し、意識づけを行いながら教材を展開している本がいくつかありましたが、その中でも、日本文教出版と東京書籍が詳しく、かつ3学年にわたっていじめを取り上げておりました。また日本文教出版では、いじめを具体的に止める方法についても示されておりました。

2点目は、多様性、異文化理解、人権などについてです。東大阪市の学校には、外国にルーツのある児童生徒や、配慮が必要な児童生徒が多く学んでいます。この点は、いじめとも関連がありますが、その違いを考え、大切にしてほしいという意見が、市民からも寄

せられておりました。これらを、多角的に教材に取り入れていると感じたのは、先ほどの2者ですが、結論として、私は、日本文教出版の教科書が、東大阪市に最もふさわしいと思いました。他の教科書も、いじめ問題を取り上げてはいますが、「考えてみましょう」というものにとどまっているなど、読んで分かるような工夫が少し足りないかなと感じている次第でございます。また、現在の教科書については、教室で展開しないと分からないものもありますが、読むことである程度分かるという視点も、ますます大事になっています。そういう面でも、日本文教出版の教科書が、いじめの観点や多様性の観点においても、東大阪市の教科書に最もふさわしいと考えました。

5人の意見を聞きましたが、日本教科書が4人で、東京書籍が1人で、日本文教出版が2人で、Gakken が2人ということです。意見がかなり分かれてしまいましたが、もう少し、皆さんから、この教科書が良いというお話があればお願いします。

【各委員】

(特になし)

【古川教育長】

どなたもございませんか。私から述べさせていただきますが、先ほどの四層構造について、日本文教出版と東京書籍のほか、教育出版、あかつき教育図書、光村図書も取り上げています。Gakken と日本教科書については、構造的な理解とは少し違うまとめ方になっております。異文化理解の点については、光村図書は結構取り上げている感じではありますが、外国人のイラストがある点や、中身に取り上げるようなことがあって、また障害のある方への様々なことを考えてもらう教材としては、日本文教出版、東京書籍や教育出版が該当するかと思います。ただ、先ほど意見として挙がっていましたように、トライ＆エラーの観点や命の大切さといった様々な観点が、道徳には求められることから、総合的な評価が必要かとは思っております。

どなたかご意見ございますか。もう少し議論したいと思いますが。

田中委員は、日本教科書のみを推されますか。

【田中教育委員】

そうですね。現在私は、心理学などを勉強している中で、よく思うことが、例えば心理学に対しては、今まで「頑張り」などといったイメージがありましたけれど、勉強を進めていくと、科学的又は実験的で、エビデンスを使った学問だなと思っており、イメージが変わりました。道徳についても、先ほど申し上げたとおり、言葉の力もありますが、それを伝えていく、受け取る環境、周りの声などによって大きくイメージが変わると思います。現在、多様化が進んでいる中で、こうあるべきだということ自体も、可能性を奪っていることになるのではないかと考えます。やはり子どもたちに提供してあげるべきものとしては、本人たちが分かりやすくなるようなツールやエビデンスではないかという観点で、日本教科書の「ウェルビーイングカード」（巻末とじ込み）や、日本文教出版の「心情メーター」（デジタルコンテンツ）も良いと思っております。デジタルコンテンツも良いですが、物としてある方が良いかなという思いで、日本教科書を選んでいきます。

【古川教育長】

他に御意見はございますか。道徳は、非常に授業の展開が難しい面があると思います。例えば、人が人助けのために亡くなるような内容だった時に、それで良かったのかどうかなど、教員がどのように展開するのかは、ある意味、国語以上に難しい面があるかもしれません。様々な生徒の意見を集約して、どのように考えさせるのかが非常に難しいという面もあると思います。

新しい時代に、新しい価値観なども生まれる中で、各者において、様々な工夫はされているかとは思いますが、森田教育次長から、再度選定委員会の議論について、もう少し聞かせてもらえるとありがたいのですが、いかがでしょうか。

【森田教育次長】

冒頭、教育長からお話がありましたように、考えて、議論するということが大事なので、教員がどのように使うかという点が、本当に重要であるという話がありました。また、これも教育長からお話がありましたように、いじめについては、現代の多様な社会において、その違いを豊かさという観点で、様々な議論があったと認識しております。大きな意見としては以上でございます。

【古川教育長】

他に御意見はございますか。

【堤教育委員】

日本教科書の場合は、あまり誘導するという形ではなくて、先生方が、目の前の子どもたちにとって、そのテーマごとに、どのような話し合いをして導いていくのかという点について、それぞれの先生の個性や考え方が、尊重されやすいのではないかと考えています。

【古川教育長】

ウェルビーイングという言葉の意味については、まだ我が国において、ある程度のコンセンサスが得られていない面もあるのではないかと心配しています。欧米がウェルビーイングと言い出したわけですが、欧米型の価値観と東洋、日本の価値観ではズレがあり、現在国において、日本人のウェルビーイングの指標について、試案が提示されている状況です。道徳の授業の中で、各先生が、ウェルビーイングとは何かと聞かれた時に、どこまで展開するのか、その説明をするだけでも相当時間がかかってしまうのではないかと、また、教材の本質的な内容から遠ざかるのではないかとすることを懸念しております。もちろん、カードを使わない方法もありますが、使うには少しハードルが高いという声が、選定委員会でもあったことも仄聞(そくぶん)しております。

また、申し訳ございませんが、日本教科書のいじめに関する展開が、先ほど私が選びま

した日本文教出版や東京書籍などに比べると、比較的に多くないと感じたところでございます。「考えてみましょう」ということも大事ですが、基本的に、いじめの本質は、「私は関係ない」という人がたくさんいることにあるという、この教育界がたどり着いた1つの大きな宝物（成果）について、その観点を、子どもたちに知ってほしいという流れはとても大事だと思っております。そういう意味から、私は日本文教出版を推していますので、日本教科書が、その部分についてもう少し記述があると良かったとは思いますが、いじめについて、授業で展開するにあたって少し弱いということが正直な感想です。

他の教科書との比較も含めて、ご意見いかがでしょうか。秦教育長職務代理者は、3つの発行者の中で、あえて選ぶとしたらどの発行者ですか。

【秦教育長職務代理者】

今回においては、あえて選ぶというのが非常に難しかったです。

【古川教育長】

堤教育委員は Gakken と日本教科書を選ばれましたが、あえて選ぶとしたら、どちらですか。

【堤教育委員】

例えば、先生方のお考えと言いますか、授業として、どのように教育内容をきちんと学ばせることができるのかが、すごく大事なことだと思います。学びやすさや教えやすさ、そして扱いやすさが大事なことだと思う中で、私は、日本教科書の道徳については、方向性がすごくはっきりしたものというよりかは、色々と考える余地がある教科書で、道徳の授業を組み立てていただきたいなと思っています。

【古川教育長】

どちらかという日本教科書を推されるということですか。

【堤教育委員】

はい。1度チャレンジをしていただきたいなと思います。いじめについても、なくす必要がありますし、子どもたちの成長過程において大事な内容だと思いますが、いじめの他にも、やはり人として、生きていく上での大事な観点が様々にあると思います。その点においても、色々な観点からのお話や、話題の提供にもなるような教科書を、そしてシンプルで、あまり色合いがないものの方が、道徳の教科書としてはふさわしいのではないかと考えています。

【古川教育長】

私としては、やはり多文化、多様性、異文化理解という観点でも記述が足りないと思いました。またいじめの解説についても、1年生の教科書にしか書かれていません。

なんと言いますか、色々な考え方があって、子どもたちにも考えてもらって、いろんな意見を出して、そして先生にも色々な考え方がある中で、「色々な考え方があるよね」と言って授業を終わってしまうのは、これからの道徳という意味では不十分ではないかと思っています。もちろんそういう授業をされているわけではないと思いますが。やはり教える側の教員が、より進んだ形で生徒に提示して考えてもらわなければ、国語の読解のような学習になってしまわないかと私は非常に危惧しております。今の東大阪市の喫緊の課題に対応した教科書の方が、より良いのではないかと思います。

山中委員もやはり日本教科書を推されますか。

【山中教育委員】

日本教科書といいますか、論点として、中学校1年生という自分の意見をしっかり持っていない中で、きちんと教えることも大事である一方で、年齢が進むにつれ、議論していくということで、例えば多様性であれば、その議論を通じて、相手を理解していくことが大事だと思っていますので、そういう観点で今回は教科書を選んでおります。その点で、

Gakken はシナリオを書いてない点があり、日本教科書では、4 コマ漫画を用いて、非常に曖昧と言いますか、答えを出してないような漫画ですので、しっかりと議論ができる余地があるものになっているかと思います。

【古川教育長】

正直に言いまして、やはりいじめ問題については、山中委員がおっしゃるように、きちんと段階ごとに色々なことを経験しながら、考える機会を持ってほしいと強く願っており、そういう意味では、1 年生の時に 1 回取り上げているものと比べ、1 から 3 年生に渡って少しずつ深い内容を提示している日本文教出版又は東京書籍を推したいところで、少し日本教科書は、その記述が十分なのかと非常に危惧するところではあります。何度も申し上げて恐縮ですけれども。

他にいかがでしょうか。山中委員は、2 者のうち、どちらを選ばれますか。

【山中教育委員】

どちらもというところですよ。日本文教出版についても、別冊になっていて、議論ができる教科書だとは思っていますし、どの教科書も非常に良い教科書だと思っています。

【古川教育長】

大分、時間も経過しておりますのでまとめたいと思いますが、あえて、1 冊に絞り込むということで再度お聞きいたします。秦委員はいかがでしょう。

【秦教育長職務代理者】

すみません。なかなか 1 冊には。

【古川教育長】

難しいですか。

【秦教育長職務代理者】

はい。

【古川教育長】

堤教育委員は、絞り込むのは難しいですか。

【堤教育委員】

そうですね。

【古川教育長】

先ほどから伺っております複数意見に基づき、一番多いのは日本教科書でございますけれども、皆さんが推していらっしゃるの、あと私次第かなと思っていますけれども。

進退窮^{きわ}まりましたね。それでは、日本教科書を推す声が一番多いようですので、これを採択するということによろしいですか。

【各委員】

はい。

【古川教育長】

新しい教科書になりますので、使い方については、先生方に研究していただいて、展開していく必要があるかと思いますが、日本教科書を推す声が多いようですので、道徳については、日本教科書に決定いたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

【各委員】

(異議なしの声あり)

【古川教育長】

御異議なしと認めます。道徳については日本教科書に決定いたしました。

それでは、国語から道徳まで全 16 種目を決定いたしました。ここで改めて決定いたしました全 16 種目の発行者名をまとめて申し上げます。国語から順に申し上げます。

国語につきましては、光村図書

書写につきましては、光村図書

社会の地理的分野につきましては、帝国書院

社会の歴史的分野につきましては、日本文教出版

社会の公民的分野につきましては、帝国書院

地図につきましては、帝国書院

数学につきましては、啓林館

理科につきましては、啓林館

音楽の一般につきましては、教育芸術社

音楽の器楽合奏につきましては、教育芸術社

美術につきましては、光村図書

保健体育につきましては、^{ガッケン}Gakken

技術・家庭の技術分野につきましては、開隆堂

技術・家庭の家庭分野につきましては、開隆堂

英語につきましては、三省堂

道徳につきましては、日本教科書

以上でございます。

本日予定しておりました議案の審議は以上でございます。その他教育委員の皆様から何か御意見、御質問などはございますか。

【各委員】

(特になし)

【古川教育長】

それでは、本日の会議はこの程度でとどめたいと存じますが、御異議ございますか。

【各委員】

(異議なしの声あり)

【古川教育長】

それでは、これをもちまして、東大阪市教育局令和6年8月臨時会を閉会いたします。委員の皆様、また、御出席の皆様、大変お疲れ様でした。

会議録署名委員

東大阪市教育局教育長	古川 聖登
東大阪市教育局教育長職務代理者	秦 卓宏

※別紙参考：令和7年度使用中学校教科用図書 発行者一覧

令和7年度使用中学校教科用図書 発行者一覧

教科	受理種目	発行者名
国語	国語	東京書籍
		三省堂
		教育出版
		光村図書
	書写	東京書籍
		三省堂
		教育出版
		光村図書
社会	社会(地理的分野)	東京書籍
		教育出版
		帝国書院
		日本文教出版
	社会(歴史的分野)	東京書籍
		教育出版
		帝国書院
		山川出版社
		日本文教出版
		自由社
		育鵬社
		学び舎
		令和書籍
	社会(公民的分野)	東京書籍
		教育出版
		帝国書院
		日本文教出版
		自由社
		育鵬社
	地図	東京書籍
		帝国書院
数学	数学	東京書籍
		大日本図書
		学校図書
		教育出版
		啓林館
		数研出版
		日本文教出版

(参考)

教科	受理種目	発行者名
理科	理科	東京書籍
		大日本図書
		学校図書
		教育出版
		啓林館
音楽	音楽(一般)	教育出版
		教育芸術社
	音楽(器楽合奏)	教育出版
		教育芸術社
美術	美術	開隆堂
		光村図書
		日本文教出版
保健体育	保健体育	東京書籍
		大日本図書
		大修館
		Gakken
技術・家庭	技術・家庭(技術分野)	東京書籍
		教育図書
		開隆堂
	技術・家庭(家庭分野)	東書
		教育図書
外国語	英語	開隆堂
		東京書籍
		三省堂
		教育出版
		光村図書
		啓林館
道德	道德	東京書籍
		教育出版
		光村図書
		日本文教出版
		Gakken
		あかつき教育図書
		日本教科書